

平成15年度 施政方針

予算編成の基本理念

平成15年度を迎えるにあたり、今後の市政推進にあたっての所信の一端を申し上げ、市議会並びに市民の皆様の一層のご理解とご協力を御願ひ申し上げます。

私も市政を担当いたしました、3回目の当初予算編成を迎えたところであり、厳しい財政環境のなか、公約いたしました「心の通うあたたかなまちづくり」、「住む人を大切にするまちづくり」の基本方針のもと、これまで高齢・障害者在宅自立支援や子育て支援の推進、ごみ分別収集等資源リサイクルの推進、鯨文化への取り組み、観光基本計画の策定、ケーブルテレビの実現、みすゞ記念館建設等、市民の身近なかつ必要な施策の実現に努力して参ったところであり、更にこれからも微力ではありますが市民の皆様のご協力にこたえるべく努力を重ねて参りたいと決意を新たにしております。

さて、わが国を取り巻く経済情勢はデフレ傾向が強まるなか、

深刻化する景気、雇用問題、各種構造改革への対応等、厳しい課題に直面し、また先行き不透明な状況が続いております。

また、地方行政を取り巻く状況も変革の時代を迎え、地方分権、自治体再編、少子・高齢化等課題が山積する一方、財政は、長引く景気低迷を背景とした税収の落ち込み等によって大幅な財源不足が慢性化するなど、まさに危機的な状況にあるところであります。

本市においても、主要財源である市税は減少傾向に歯止めがかけられず、特に来年度は固定資産税の評価替えの年でもあることから大幅な減収が見込まれ、また地方交付税も国の地方財政計画の抑制から減収が見込まれるなど、財源の確保が困難な状況となっております。一方で職員定年退職者の増加や基金残高の減少等もあって、財政環境は極めて厳しいものとなっております。

しかしながら、こうした厳しい状況下におきましても、地場

産業の振興や、少子・高齢化対策、情報化社会の進展、環境対策、地方分権社会への対応等、地域社会の環境変化に対する諸問題については的確な対応を行うていかなければならないところであります。

そのためには、行財政改革の一層の推進を図るとともに、施策の重点化を図り、簡素で効率的な行財政運営に努め、また長門地域1市3町の合併問題をも視野に入れながら、将来の方向性をしっかりと見据えた取り組みをしていかなければならないと考えておるところであります。

平成15年度予算は、厳しい財政状況を踏まえ、多額の財源を要する新たな事業の実施は困難なことから、施策の選択にあたっては、新規のハード事業等は極力抑制し、経費の節減や効果の低減した施策の見直し等により、財源捻出を図りながら、住民生活関連の社会資本整備及び産業基盤の整備等の継続事業や、ソフト事業等を中心に緊急度の高い事務事業について重点的に取り組むことを基本とし、引き続き、「福祉・環境施策」、「教育・文化施策」、「地域情報化

策」等を重点項目とし、また地域の活性化対策にも留意しながら編成を行ったところであります。

平成15年度 一般会計予算の編成

(単位：千円)

